

略歴書

木全 宏之 (きまた ひろゆき)

高圧ガス保安協会 高圧ガス部 審議役、博士(工学)、技術士、
一級建築士、1級土木施工管理技士



【専攻分野】耐震工学全般

【本会活動】

理事（事業企画担当）：2010年6月～2012年5月

理事・副会長（総務・会計・会員・広報担当）

：2016年6月～2018年5月

性能規定型耐震設計法に関する研究委員会 委員

：2004年4月～2006年3月

事業企画委員会 委員長：2010年6月～2012年5月

将来構想委員会 委員長：2016年6月～2018年5月

17WCEE 運営委員会 監事：2018年4月～2021年3月

【略歴】

1982年 名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻修了

1982年 清水建設株式会社入社（土木設計部）

2008年 株式会社大崎総合研究所 研究部長（兼務）

2013年 清水建設株式会社 担当部長（土木技術本部設計第二部）

2014年 高圧ガス保安協会入社 審議役（高圧ガス部）

現在に至る

【受賞】

特になし

【委員会活動(直近5年間)】

・土木学会 地震工学委員会 委員（2005年4月～）

・土木学会 地震工学委員会 地震防災技術普及小委員会 委員長
（2011年4月～2015年3月）

・同 顧問（2015年4月～）

・土木学会 レジリエンス確保に関する技術検討委員会 コンビナート分科会 委員
（2017年6月～2018年6月）

・高圧ガス保安協会 高圧ガス施設の津波対策検討調査委員会 委員
（2012年4月～2014年9月）

・高圧ガス保安協会 高圧ガス施設の耐震補強評価に係る調査研究委員会 委員
（2014年4月～2014年9月）

・日本建設業連合会 電力工事委員会技術部会 耐震性検討WG リーダー
（2012年4月～2014年3月）

【著書および主要論文(代表的なもの10編以内)】

・実務の先輩たちが書いた土木構造物の耐震設計入門，(社)土木学会，丸善，2001（共著）。

・実務に役立つ耐震設計入門，(社)土木学会，丸善，2011（共著）。

・交通ネットワークを支える免震と制震の技術，(社)土木学会，丸善，2012（共著）。

・木全宏之，藤田豊，堀井秀之：動的クラック進展解析による重力式コンクリートダム

- の耐震安全性評価, 土木学会論文集, No.787/ I -71, pp.137-145, 2005.
- ・木全宏之, 藤田豊, 堀井秀之, Mahmoud YAZDANI: 基礎岩盤の不連続性を考慮した重力式コンクリートダムの地震時挙動, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.68, No.4, pp.I_891-I_898, 2012.
 - ・木全宏之, 堀井秀之, Mahmoud YAZDANI: 基礎岩盤の不連続面の進行性破壊を考慮したアーチ式コンクリートダムの耐震安全性評価, 土木学会論文集 A1 (構造・地震工学), Vol.69, No.4(地震工学論文集第 32 巻), pp.I_9-I_19, 2013.
 - ・木全宏之, 坂井康伸, 小林 望, 竹中 恵, 田蔵 隆: 地盤の非線形性が斜杭基礎の制震効果に及ぼす影響, 土木学会土木建設技術発表会 2012 概要集, 2012.
 - ・木全宏之, 西村晋一, 坂井康伸, 福武毅芳, 田地陽一: 地震力を半減する「杭頭絶縁基礎」の開発, 建設物価, pp.記事 18-記事 23, 9 月号, 2012.
 - ・長谷部雅伸, 大竹健司, 古村孝志, 木全宏之, 征矢雅宏, 石井やよい, 佐藤俊明: 南海トラフでの最大クラスの地震を想定した瀬戸内海における津波伝搬シミュレーション, 土木学会論文集 B2 (海岸工学), Vol. 68, No.2, pp.I_166-I_170, 2012.
 - ・木全宏之, 小山田賢治, 大野卓志: 遠心模型振動実験による球形貯槽の動的相互作用に関する検討, 日本地震工学会第 13 回年次大会梗概集, 2017.

【所信】

「本会活動」で示したとおり、これまで理事を二期務めました。特に二期目は総務・会計・会員・広報担当の副会長を務め、日本地震工学会の活動全般を熟知しているつもりです。監事として選出いただけましたら、何よりこれまでの本会活動経験を活かし、職務を遂行したいと考えております。

また、本会にとって今後の最重要事業の一つである第 17 回世界地震工学会議が 2020 年に開催されます。今年 4 月より 17WCEE 運営委員会の監事を務めており、偶然ですが、在任期間が今回推薦対象の来期 2019 年度からの本会監事の在任期間と重複します。このことから、17WCEE 運営委員会の監事と本会監事として併任させていただければ、当会にとってより円滑な組織運営が見込まれるものと考えます。

さらに、「略歴」に示すとおり民間建設会社のみならず公益法人での組織運営経験を、監事としての職務に活かしたいと考えます。また、現在所属している公益法人は機械・化学系分野の保安規制を生業とする法人であり、民間建設会社での土木・建築・地盤系のみならず機械系の分野横断の耐震関連業務経験や人脈等を監事としての職務に活かしたいと考えます。申し上げるまでもなく、「分野横断」は当会発足目的のキーワードです。

いずれにしても（監事として選出いただけるか否かは別として）、一会員として微力ながら、日本地震工学会の発展ならびに地震工学および地震防災に関する学術・技術・教育の進歩発展に貢献し、地震災害の軽減に尽力していきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以上